

読むのがおもしろいときは、おうちの人といっしょに読んでね。

もんだい 1	答えは②の「川の中を歩いて渡っていた。」です。 草津川はほとんど水の流れがないため「砂川」とも呼ばれていました。
こたえ ②	そのため、橋を架けることがなく、雨が降るなどして水が増えたとしても、歩いて川を渡らなければいけませんでした。 ちなみに、徒歩で川を渡ることを「徒歩渡し」といいます。水量が多かったり川の水深が深かったりする場合に人の手を借りて川を越えますが、この場合も「徒歩渡し」といいます。「木曾海道六拾九次之内 草津追分」一方、船で川を渡る場合は「船渡し」といいます。



(草津市蔵) 歌川広重画
「木曾海道六拾九次之内 草津追分」

もんだい 2	答えは③の「奥州道中」です。
こたえ ③	①の東海道と②の中山道はどちらも草津市を通過していますが、③の奥州道中は、江戸の日本橋から北上し奥州（現在の東北地方）へ向かう街道です。東海道、中山道、奥州道中と日光道中・甲州道中の5つの街道を総称して、「五街道」と呼びます。いずれも江戸日本橋へと通じる主要街道でした。

もんだい 3	答えは②の「南田山古墳」です。
こたえ ②	①の膳所茶白山古墳は大津市にある古墳なので、「草津市内にある古墳」ではありません。 ③の南笠古墳は草津市南笠町にある古墳ですが、古墳の中（石室）を見ることはできません。 南田山古墳は野路町にあり、円墳（丸い形の古墳）が神社の境内に現存します。



南田山古墳現地見学会の様子

<p>もんだい 4</p>	<p>答えは③の「版画のように板に絵を彫って印刷するようになったから」です。</p>
<p>こたえ ③</p>	<p>最初のころの浮世絵は、肉筆（筆で実際に描いたもの）で描かれたものでした。ですが、江戸時代の半ばごろから、木材に絵柄を彫る技術「版木」が広まりました。</p> <p>浮世絵は、用いる色ごとに版木が彫られ、いくつもの色の版画を重ねて作られます。下絵を描く人、版木を彫る人、実際に紙に摺る人と各工程が分業されており、それぞれに専門の職人がいました。</p>

<p>もんだい 5</p>	<p>答えは①の「縄文時代」です。</p>
<p>こたえ ①</p>	<p>日本で一番古い形の舟は「丸木舟」といい、大きな丸太をくりぬいて作られたものです。この舟（または舟の一部）が琵琶湖周辺の遺跡から出土しています。草津市ではこの舟の形をした木でつくられたミニチュアが出土しています。</p> <div data-bbox="528 920 890 1066" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">（中沢遺跡出土）舟型木製品</p> <p>丸木舟は水の流れや人力がないと動きませんが、時代を経ると、帆が付けられた帆船がつくられ、風の力を利用することができるようになります。</p> <p>琵琶湖では、後に「丸子船」という丸太を重木（重り）にする、琵琶湖特有の船がつくられるようになります。</p>

<p>もんだい 6</p>	<p>答えは①の「史跡芦浦観音寺跡」です。</p>
<p>こたえ ①</p>	<p>①～③は全て滋賀県にあるものですが、②の史跡下之郷遺跡は守山市にあります。③の特別史跡安土城跡は近江八幡市にあり、史跡より重要度が高い「特別史跡」です。</p> <p>「史跡」とは、「遺跡のうち、歴史上または学術的に価値が高いもの」のうち重要なものを指します。</p> <p>草津市には史跡芦浦観音寺跡の他に、（史跡瀬田丘陵生産遺跡群のうち）野路小野山製鉄遺跡と、史跡草津宿本陣の3つの史跡があります。</p> <div data-bbox="1098 1574 1428 1818" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">芦浦観音寺表門</p>

【問合せ先】

草津市歴史文化財課 〒525-8588 草津市草津三丁目 13-30

TEL : 077-561-2429 FAX : 077-561-2488 E-mail : bunkazai@city.kusatsu.lg.jp